

門沢橋小学校 学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第1回)

1. 日時 令和6年6月19日(水) 10:00~11:30
2. 場所 門沢橋小学校 家庭科室
3. 出席者 牛村忠雄委員、二見宏二委員、清水文生委員、大島千佳委員、
米山恵委員、鈴木美由紀委員、武井友勝委員、大河原俊一委員、
青木賢一委員、市川由一委員、境景子委員、土谷政巳委員
傍聴1名

4. 会議の内容

(1) 学校長挨拶

＜境校長＞

今年4月に着任した。地域のことを教えていただきたい。

本校の子どもたちのために、また、本校のために、お力をお借りしたい。

(2) 委嘱状交付

(3) 委員長の選出、および挨拶

委員長に、牛村忠雄委員を選出。

＜牛村委員長＞

2年間の委嘱を受けた。年齢の心配もあるが尽力していきたい。

学校にも関わってくるところだが、最近のニュースでは、為替の動向が心配。
物価高騰が食の問題になってきている。給食の食材費に影響が出て、量を減ら
すか、献立を変えていく等対策が必要で、今までどおりにはいかないのではな
いか。海老名市の家庭への経済的な支援にも期待しているが、心配ではある。

門沢橋小学校の発展と子どもたちの成長のためにやっていきたい。

(4) 自己紹介

(5) 議事および報告

①学校運営の基本方針について

＜境校長＞

○本年度のグランドデザインについての説明

- ・本校の特色としての稲作活動について

先日、泥だらけになりながらも楽しく田植えを行った。

- ・小中連携について

子ども同士のつながりがある。6年生は、有馬中学校の数学担当教員に

よる数学の授業体験も行っている。小中お互いに授業を参観し合ったり、情報を交換したりしながら、中学校卒業までの9年間の学びを支えていく。

・本年度の注力点について

一人ひとりを大切にする。これに向けて教職員の意識を高めていく。児童支援部を中心に、支援シートを活用しながら情報共有等をとおして、児童を支援していく。別室登校を支援する場として「すてっぷルーム」を設置した。少しずつ活用が進んでいる。障がいの有無に関わらず、交流の在り方など、子どものニーズに合わせた「フルインクルーシブ教育」、海老名市が掲げる「誰一人取り残さない教育」を、本校も進めていく。

○年間の学校行事予定

- ・（資料を見ながら）今年度も、例年と同様の学校行事や教育活動を予定している。お力添えをいただきたい。

清水 委員：「すてっぷルーム」が必要な子どもは増えているか。

境 校長：増えている。学びの場は学校だけではないという社会にもなっている。また、集団や教室のざわつきが苦手という児童もいる。

清水 委員：いじめなどの関係はあるか。

境 校長：ないとは言い切れない。学習、学校生活、人間関係、児童の特性、家庭等様々な要因がある。全国的に増えている傾向がある。

牛村委員長：幼稚園ではどうなのか。

米山 委員：特別な感性を持った子どもは増えている。愛情をかけて大切にしてもらっている子どもは、人の輪の中にスムーズに入っている様子があるが、中には、人の輪の中に進んで入っていくことが難しい子どももいる。

境 校長：コロナ禍での「人と交わることへの制限」の影響もあるかもしれない。

武井 委員：フリースクールの需要が増えていると聞いている。「すてっぷルーム」の運営についての人手等は足りているのか。

境 校長：海老名市教育委員会からも「別室登校支援員」を配置していただいている。午前中のみではあるが、毎日ご勤務いただいている。そういった児童支援の相談窓口は今年度も教育相談コーディネーターが担っている。全国同様、海老名市も門沢橋小学校も、教職員の数がもっと豊かであればよりよい児童指導や支援につながると感じている。

清水 委員：学校の先生がいろいろなことを担っていることに感謝する。

②学校運営協議会計画書について

＜境校長＞

○昨年度までの取り組みをもとに「案」として作成している。

○外国籍の日本語の理解が難しい児童・保護者の増加について追加記載した。

○今年度も、「地域の中の学校」づくりについて、学校運営協議会で協議していきたい。また、安全・安心な学校生活について、協議していきたい。

大河原委員：異議なし。

青木 委員：異議なし。

市川 委員：異議なし。

鈴木 委員：異議なし。

大島 委員：外国籍の子どもの人数が増えているようだが、外国の方のコミュニティがある。スペイン語、ポルトガル語。ブラジル国籍の方等も。地域の力の活用がもっとできると思う。

牛村委員長：自治会等、地域での外国籍の方との交流はあるか。

二見 委員：あまりない。外国籍の児童がこんなにたくさんいるとは。

大島 委員：そもそも自治会に入らない家庭もある。

清水 委員：地域でのふれあいがもっとあると良いが、今の自治会の中では難しい。

牛村委員長：今後、国際社会で考えるとますます外国籍の家庭が増えていくだろう。学校だけではなく、地域の課題として取り組んでいく必要があるのではないか。

大島 委員：子どもは言葉を覚えるのが早い。

米山 委員：父親は仕事をしているため日本語を話せるが、家庭にいる母親は日本語の習得が難しいケースもある。中には、兄弟が通訳している実態もある。

大島 委員：外国籍の家庭に家庭訪問にいくと、母親が日本語での会話が難しい場合がある。家庭への支援がもっと必要なのかもしれない。

米山 委員：英語は通じるところも多い。

大島 委員：スマホの翻訳機能を活用することもあるが、その翻訳が合っているかを確認することが難しい。

清水 委員：地域での安全については、歩行者信号点滅の際、大人が子どもの手を引いて走って渡っている場面を見たことがあり、大人が子どもの前でもしっかりした姿を見せる必要があると感じた。

牛村委員長：これらのことは今後も協議していく。今年度の本会の計画については、提案通りでいくこととする。

牛村委員長：学校運営協議委員の構成については、示されたとおりであるが、これでよいか。

大島 委員：青健連の方の参加がないが。

牛村委員長：有馬中学校の運営協議会には入っていただいているとのこと。門沢橋小学校の委員構成としては示された通りでいくこととする。

大河原委員：異議なし。

青木 委員：異議なし。

市川 委員：異議なし。

鈴木 委員：異議なし。

※令和6年度学校運営協議会計画書について、承認いただいた。

③フルインクルーシブ教育について

牛村委員長：これは言わば人権教育であると考え。様々な特性のある子どもも含め、共に学び、生きていく、共生社会につながる。ただ、先生たちが大変だと思う。

境 校長：子どもに関わる私たちが、子どもたちへの関わり方の意識を変えていかなければならないと考える。学校だけではなく、地域としてどのような子どもに育てていきたいか協議したい。その中で、学校としてどのように取り組んでいくかを職員と考えていきたい。先日、「フルインクルーシブ教育」について、有馬中学校区での「対話の場」が設けられ、そこに参加してきた。様々な立場の方のそれぞれの考えに触れ、刺激をもらった。対話をしながら進めていくことで門沢橋小学校の子どもたちにとってはどうしていくことがよいことなのか、考えていきたい。

牛村委員長：神奈川県のリフレットを参照。私たちの地域ではどのように取り組めるか。

米山 委員：他校の事例だが、登校渋りがある児童に対して、地域のおじいさん、おばあさんがボランティアで支援している。これらの方たちに話を聞いてもらったり遊んでもらったりしているうちに自然に学校に行けるようになった。

大島 委員：これも他校の事例だが、14人から15人の大人の支援者が交代で入学したばかりの小学1年生のサポートをしている。クラスに5人くらいの大人が、皆で一緒に行動することが難しい子のサポートをしている。サポートに参加している大人としても、街中でその子に声をかけられると嬉しいという声も聞いている。

牛村委員長：「共生社会」「すべての人が」の部分を意識して、自分たちに何ができるかという視点で、この協議会でも議論をしていきたいので、今後も引き続き、協議の柱としていきたい。

(6) その他

①第2回協議会に向けて

10月16(もしくは23)日(水) 10時から

②海老名市コミュニティースクール研修会(9月27日)の案内

以上